

#### ①ディレクトフォース

東京に着いてすぐ、霞ヶ関に移動し、ディレクトフォース主催の夏季プログラムに参加した。全体への講演では、近藤玄大さんという、義手を作っている方のお話を聞いた。私はこの講演を聞いて、とても驚いたことがある。それは、ファッションの一部として義手を製作しているということだ。私の感覚からすると、義手のイメージは、手がないことを隠すためのものであったため、白や黒の義手にはとても驚いた。その中には、帰国子女で左利きであると言う自身の経験も生きているということにも驚いた。身近なことに疑問を抱き、それを生かそうとする姿勢が大切なのだと感じた。

その後、3 人の方とお話した。全ての方々に共通なのは、自分のしている、又はしていた仕事に誇りを持っているということだ。私がお話を聞いた 3 人は、富士フィルムの海外支社ではたらいていらっしゃった方、アジア難民のために働いていらっしゃる方、超高層建築を作っていた方だった。どの方も、仙台にいたらお話することが難しいような方々で、本当に貴重な経験になった。

#### ②企業大学訪問

その日の午後、私たちは、慶應義塾大学病院脳神経外科を訪問した。私は脳神経外科志望ではないが、ある聞いてみたいと思っていた質問を聞くことができた。それは、脳に腫瘍が出来、それを切除するとなった時、場合によっては、手や足の動き、言葉を司る部分にまで腫瘍が及んでいて、切除するかの決断が難しいことがあるが、その決断はどのようにしているのか、ということだ。対応していただいた三輪先生は、患者さんとの面談を何度も行って決める、と教えてくださった。また、手術中にどこまでを切除するか決めるために、覚醒手術を行うこともあると伺った。覚醒手術とは、頭を切り開き、頭蓋骨を取り外すまでは麻酔を効かせ、その後、患者さんを、呼びかけをすれば起きるくらいの状態にし、話すことが出来るか、手を動かすことが出来るかなどを慎重に確かめながら腫瘍を切除し、再び麻酔を効かせ、頭を閉じる、という手術だ。これは、脳は痛みを感じないということを利用している。高い技術が必要だが、患者さんの願いを叶える手術が実現出来るので、素晴らしい手術だと思った。また、何としても患者さんを救いたい、という先生方の熱い思いに感銘を受けた。私も、医師になるという目標を実現することが出来たときには、患者さんを救いたいという熱い思いを持った医師になろう、と心から思った。

医師という仕事は、男社会とも捉えられがちで、さらに外科ともなれば女性の先生はなかなかいらっしゃらないが、今回対応して下さった三輪先生のほかに、もう 1 人ついて下さった先生は女性の先生だった。最近では、全体的に女性の先生の割合も増えてきているというが、実際お会いするとは思っておらず、驚いた。

近年、様々な企業や政治の世界で女性の社会進出が問題となっている。私の思い込みの中でも、なんとなく女性のつきにくい職業と、逆に女性の多い職業とがあるが、そんな思い込みにとらわれず、本当に自分がやりたいと思ったことをやる先生はとてもかっこいいと思った。

### ③OBOG 座談会

一日目の夕食後、仙台二高 OBOG で、東大などに進学された方々との座談会を行った。その中で印象に残った言葉が、「いい大学」を探すのではなく、自分が入った大学を「いい大学」出来るかどうかが大切なということだ。

実際に同じ高校から東大への進学を果たした先輩方の言葉はひとつひとつが私の心に響いた。そして、夢を持ち、それを叶える努力をすることの大切さを深く感じた。

また、東大には進学振り分け制度というものがあり、大学に入って2年間将来の進路を考える期間を与えられることから、やりたいことが明確でない、という理由で東大に進む人がいるのにも驚いた。たしかに、大学で2年生活してみても、様々な経験を重ねたほうがより良い進路選択ができるのではないかと、思った。

### ④東大見学

2日目は、東大の学生団体、FairWindのみなさんの主催で、東大の駒場キャンパス、本郷キャンパスを見学した。東京というと、都会のイメージが強いが、どちらのキャンパスも緑豊かで、とても広いことに驚いた。非常に暑い日で、外を歩くのはしんどかったが、東大の歴史を感じる校舎はどれも重厚感があり、また新しい校舎もあり、とてもスタイリッシュで、見ているだけでわくわくした。

FairWindの皆さんは皆さんとても気さくで、地方高校から東大への進学を是非して欲しい、という熱意が感じられて、歳はそこまで離れていないのに、本当にすごい方々だなと思った。また、私の出身中学(中高一貫)の高校を卒業されて東大に合格した先輩も FairWind に所属されていて、とても嬉しかったのと同時に、自らと同じような立場から東大を目指す高校生のために活動する先輩がいる、ということが少し誇らしく思えた。

様々な企画があったが、中でも印象に残っているのは、研究室見学だ。2つの研究室を15分ずつ見学した。一つ目の、魚についての研究をしている研究室では、淡水魚と海水魚が一緒に暮らせるようにする研究や、魚の養殖についての研究をしていた。淡水魚と海水魚が同じ水槽で暮らすことが出来る原理は、海水と淡水の中間くらいの濃度の食塩水をつかっているからだそうだ。金魚とヒラメが同じ水槽で飼育されているのにはとても驚いた。二つ目の、セルロースについての研究をしている研究室では、実際にベンゼン環を見た。そのベンゼン環は、物質を宇宙に飛ばし、良い環境のなかでじっくり結晶化させたもので、解析度が世界一ということで、ギネスブックに載った、まさにそのもの観察した。絵に書いたようなベンゼン環の姿を3Dメガネをかけて見られたことに驚くとともに、機材の立派

さに驚いた。やはり、日本でいちばんの大学は、いい機材を持って、いい研究をしているのだなと感じた。そう思うと、(こういう言い方はどうかと思うが)偏差値の高い、国から多くのお金を受け取っている大学へ進むことには大きな価値があり、今勉強を頑張っておくことは、自分の大学生活、強いては自分の将来にも影響を及ぼすのだなと感じた。

#### ⑤まとめ

今回の東京研修を通して、自分の将来についての見通しをさらに明確にし、また、大学選びについて考え直す機会を持つことが出来た。日本の首都であり、産業や経済、その他多くのことを中心である東京の素晴らしさを肌で感じられた。また、仙台では話すことが出来ないような、日本、そして世界の今までの発展、あるいはこれからの将来の為に働いてきた方々と話すことが出来て、自分の視野が広がった。このような素晴らしい機会を頂けたことに、感謝している。今回の研修で受けた素直な驚き、新鮮な感覚を持って、毎日の生活を送っていこうと思う。